

コミュニケーションの輪を広げて

親子感想文講座 開催

主催：三郷市立早稲田図書館

親子のコミュニケーションを深めながら読書感想文に取り組もうと、今年度、早稲田図書館では、親子感想文2回連続講座（6／9・16）を持ちました。

1回目： 読書感想文とは何か？ 書き方を知って感想文名人になろう！

2回目： 読書感想文を実際に書いてみよう。



— 早稲田図書館2階の集会室が会場 —



“本を読んで心が動いたら、その思いを素直にかいてみましょう。感動は自分自身のものですが、こんなにすばらしい本があるよ、と誰かに伝えたら、もっとすてきです。書く前にお父さんお母さんに感動を伝えてみてくださいね。
(講師)

まずは同じ本を繰り返し読む、感動した箇所をピックアップし、そこを中心に子どもと一緒に話し合い深めることをやっていきたいです。(親)

感想文を書くために本を読んで、前よりもっと本が好きになりました。(子)

本を読んで得られた知識や感想をそしゃくして、自分の言葉で発信していく大切さを知りました。とてもわかりやすく親子で本を読み合ういい機会になりました。(親)

読書感想文とは

- ① 読書を楽しむ
- ② 感想文を書く本を選ぶ
- ③ 本の内容を深く理解する
- ④ 主人公や著者と自己対話をする
- ⑤ 自己を見つめ直す
- ⑥ これらを文章にする

(書く前にお父さんお母さんに本のことをいっぱいおしゃべりしよう)

コミュニケーションの輪を広げて

中学生 & 大人のコラボ読書会

中学生と大人の読書会が早稲田中学校で2回開催されました。

第1回目 3月2日 中学生22名大人7名の参加
作品名「夕日へ続く道」石田衣良/作

第2回目 7月18日 中学生19名大人7名の参加
作品名「千代に八千代に」重松清/作

「ばかじゃん」魚住直子/作

「蝉の声」浅田次郎/作の3冊から読みたい本を選ぶ。



〈 中学生の感想から 〉

- ・自分と年の離れている人とこんなに近くで語り合うのは初めてでした。けっこう話が合うので驚きました。本の内容は友情に関する事で話し合ってみて若くても年をとっていても同じ場で話ができるんだと思いました。楽しかったです。
- ・読書会に参加してよかったなと思いました。私自身は人と話すのが苦手で、読書会に参加してうまく知らない人と話せるかなと思いました。でも、同じグループになった大人の方や先輩がリードしてくれて、とても話しやすい雰囲気でした。やっとなれてきて、もう少し話をしたいと思ったら時間が過ぎてしまい、残念でした。また、読書会に参加したいです。
- ・1年生と大人の人と話しました。みんな、自分が気付かないような場所ばかり気がついて、また、そこからどんどん話が広がって、とても楽しかったし、有意義な時間だったと思います。また、やりたいです。また、この本自体もおもしろかったし、読書会の時間ももっとほしかったです。

〈 大人の感想から 〉

- ・普段は流し読みばかり。自分が思ったことや感じたことをきちんと意見交換をするのはなかなか難しい。他人の意見、まして若い人の意見を聞く機会はありませんので、とても楽しかった。良い機会をありがとう。
- ・楽しい読書会だった。私の中学生の頃はどうかだったか。本などは無かった。今は図書室になど数多くの本がある。今の中学生は、幸せなのかもしれないがやる事が多く大変かもしれない。老人の話も肯いてもらえたのが嬉しかった。
- ・暑い中、皆さん真剣に討論。当方も引き込まれ本気になりました。若人達との会話、いつも後ろ向きな話題の中で一服の清涼剤でした。読書による人とのコミュニケーション、人間関係の基本ですね。読書のまち三郷を広げていきたいですね。

コミュニケーションの輪を広げて

4ヶ月児健康診査時にブックスタート



三郷市では、公共図書館と健康推進課が協力し合って、9か月児健康診査時に、絵本の読み聞かせをして、読み聞かせの大切さを伝えています。そして、絵本を1冊プレゼント。うちどくは赤ちゃんの時から始まっています。

子育て支援センターも大活躍

八木郷子育て支援センターは9時～5時まで開館。
その他、三郷市ではつどいの広場（7カ所）で乳幼児の子育て支援を実施。



←
入口には、ママ向けの読書の情報誌など展示。

部屋の中には絵本を展示。
→



読み聞かせて、愛情を育む良い時間なんですね。すぐ大きくなってしまいうんしかかないこの時を大切にします。



— 絵本で子育てを楽しく —

幼児のうちから、読み聞かせが大切と前回の講座で教えてもらったので、本を読むことは苦手だったのですが、読み始めました。こどもが喜んで聞くようになり、とっても嬉しいです。読みきかせは大切という機会をつくってもらって感謝しています。